

ふるさと講座・自然系のお知らせ 四季の野鳥観察会

「アカアシシギ・タンチョウ観察会」

国内で唯一繁殖が確認されているアカアシシギ、天然記念物のタンチョウなどを中心に野付半島で野鳥観察会を実施します。また、「あっと驚く！」珍鳥も見られるかも？ みなさんのご参加お待ちしております。

- 日 時 6月22日(日) 午前9時30分～12時
- 場 所 野付半島(集合場所-野付半島ネイチャーセンター)
- 講 師 上西春別中学校 教諭 藤井 薫氏
- 定 員 20名
- その他 ①双眼鏡・図鑑(郷土資料館で貸し出しもします。)



平成18年度に観察した「ハジロクロハラアジサシ」は、野付半島では30年ぶり2度目という珍鳥でした。

加賀家文書館特別展示などのご案内

この度、加賀家文書館に特別展示として、所蔵資料の掛軸、野付通行屋跡遺跡の出土遺物などを新たに展示しました。従来の常設展示とあわせて『加賀家文書』に関連する貴重な資料を是非ご覧ください。



幕末の三筆
市川米庵の書



近代美術の基礎を築いた
鈴木鶯湖の画(左)



加賀伝蔵が活躍した
野付通行屋跡遺跡の貴重な資料

加賀家には、古文書資料などのほか、このような著名な人物の資料が残されています。入手経路がわかっているものや不明なものなどありますが、幕末を感じさせる貴重な資料となっています

史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録からIV～



子モロ（根室）の地でアイヌに接種し、
クナシリに渡り、箱館（函館）・江戸へ

1. 『日記ノツケ伝蔵』から

子モロに着いた翌日の七月十六日（新暦9月4日）から接種したようです。『日記ノツケ伝蔵』には「巳七月十六日」（安政四年）の日付で、子モロ場所の各地域のアイヌに接種された名簿が残されています。当時の地域で誰が予防接種を受けたかが判ります。

2. 各地域での接種者数と当時の人口

地域	安政四年 人口	接種した 人数
子モロ	41人	5人
ホニヲイ	48人	2人
ホロモシリ	48人	8人
ベツカイ	80人	18人
チャシコツ	94人	17人
シベツ	116人	26人
イチャニ	37人	8人
チウルイ	28人	6人
クン子ベツ	39人	2人
サキムイ	24人	2人
ウエンベツ	55人	6人
地域不明		3人

3. 子モロから

子モロで接種を済ませ、クナシリへ渡ります。子モロから真っすぐにクナシリへ渡ったのか。それとも、「子モロ～ベツカイ～ノツケ～クナシリ（泊）」のルートを通ったのか、記録は見つかってはいません。さらに、接種した103人は子モロに集められた可能性が大きい。

4. クナシリでは

立齋がクナシリ迄の種痘を願ったのは、義兄に当たる関谷順之助が調役並として赴任しており、会わないで帰っては江戸の養父母に申し訳が立たない。という理由でした。それを成し遂げたわけですが、種痘を行ったという史料は、まだ、見つかっていません。

5. クナシリから命からがらノツケへ

「七月二十三日（9月11日）小雨。次第に大風となる。出帆を止めようとしているところへ、御用状を届けるためにやむなく出帆する。」「幾年にもなる稀なる大風」などと書き表しています。

6. ヘツカイ～子モロ～箱館～江戸へ

「ヘツカイへ夜なって着いたが川口で波かぶり、衣服が海水に濡れる。」翌日子モロ「箱館を経て、十一月四日、江戸に帰った」『立齋年表』から（文責 調査員 戸田峯雄）

●参考・引用文献 「桑田立齋先生」二宮陸雄 1998 桑田立齋「立齋年表」二宮陸雄・秋葉實 1999

別海町郷土資料館だより No.106

発行日 平成20年5月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

郷土資料館・加賀家文書館ともに昨年度末から少しずつ展示物を増やしています。これからもより多くの資料を公開できるよう整備を進めていく予定です。今年の気候はまさに温暖化でしょうか？ 良いか悪いか別にして野鳥観察会では、珍鳥が期待できそうです。（石渡）